



Everyone has the right to health.

(健康の権利はすべての人にある)



UNAIDS プレス声明

人権が守られなければ、すべての人の健康を守ることもできない 差別ゼロデー10周年を迎え UNAIDS がプレス声明を発表

ジュネーブ 2024年2月27日 ジェンダーや年齢、セクシュアリティ、人種、民族、HIV感染の有無に関わりなく、すべての人の公平と平等を確保するため、UNAIDSは10年前、差別ゼロデー⁽¹⁾を提唱しました。しかし、その成果がいま、危機にさらされています。

女性や少女、LGBTQ+の人たち、社会的に排除されがちなコミュニティの人たちに対する権利侵害の攻撃が拡大しています。そして、法律や政策⁽²⁾、慣行、規範が、女性、LGBTQ+、移民、セックスワーカー、薬物使用者であることを理由にして、人びとを処罰し、差別やスティグマを助長すれば、対象となるコミュニティの人たちは、必要な保健、社会サービスから締め出され、公衆衛生も破綻してしまうのです。

「人権を侵害する攻撃は、自由と民主主義に対する脅威であり、健康にも有害な影響をもたらすこととなります。スティグマと差別がHIVの予防、検査、治療、ケアの普及を困難にし、2030年までにエイズ終結を目指す努力を妨げているのです」とUNAIDSのウィニー・ビヤニマ事務局長は述べています。「すべての人の権利が守られなければ、すべての人の健康を守ることもできません」

世界は進歩しています。40年前にエイズパンデミックが始まった当時は、LGBTQ+の人たちを犯罪者とみなす国が3分の2もあったのに、いまは3分の2の国が犯罪にしません。

世界の 38 カ国が HIV 関連のスティグマと差別の解消を約束しています。2015 年当時と比べると学校に通える少女は 5000 万人以上増えました。

こうした進歩が続くよう、UNAIDS は女性運動と LGBTQ+の人々の権利、人種的正義、経済的正義、気候正義、平和のための運動への支援を求めています。世界のコミュニティが人権擁護に立ち上がる中で、国連はその味方（on their side）になっているだけでなく、推進役（by their side）でもあるのです。

今年の差別ゼロデー（3月1日）⁽³⁾、そして3月全体を通じて、「みんなの健康を守るには、みんなの権利を守ろう」⁽⁴⁾ というメッセージのもとに大切な教訓を思い起こし、行動を呼びかけるためのイベントや様々な活動が展開されます。

「すべての人の権利を守ることで、私たちは持続可能な開発目標を達成し、すべての人にとってより安全で、公平で、優しく、より幸せな世界を実現することができるのです」とビヤニマ事務局長は付け加えています。

(1) Zero Discrimination Day is observed each year on 1 March | UNAIDS

(2) UNAIDS - Decriminalization

(3) Zero Discrimination Day 2024 — To protect everyone's health, protect everyone's rights | UNAIDS

https://api-net.jfap.or.jp/status/world/pdf/zero_discrimination_day_2024_campaign-jp.pdf（日本語仮訳）

(4) Zero Discrimination Day 2024 | Trello

日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団